

# OpenManage Integration for VMware vCenter Version 3.1 Compatibility Matrix



# メモ、注意、警告

-  **メモ:** メモでは、コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。
-  **注意:** 注意では、ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その問題を回避するための方法を説明しています。
-  **警告:** 警告では、物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

© 2016 Dell Inc. 無断転載を禁じます。この製品は、米国および国際著作権法、ならびに米国および国際知的財産法で保護されています。Dell、および Dell のロゴは、米国および/またはその他管轄区域における Dell Inc. の商標です。本書で使用されているその他すべての商標および名称は、各社の商標である場合があります。

2016 - 04

Rev. A01

# Contents

<b>1 Overview.....</b>	<b>4</b>
Space required for provisioned storage.....	4
Default virtual appliance configuration.....	4
その他の必要マニュアル.....	4
<b>2 サポートされているリソース.....</b>	<b>5</b>
ブラウザと Flash Player の要件.....	5
BIOS、iDRAC、Lifecycle Controller のバージョン .....	5
ポート情報.....	7
仮想アプライアンスと管理対象ノード.....	7
OpenManage Integration for VMware vCenter requirements.....	9
Supported ESXi versions on managed hosts.....	9
Dell PowerEdge シャーシでサポートされる機能 .....	10
PowerEdge サーバーでサポートされる機能.....	10
<b>3 Important notes.....</b>	<b>12</b>



# Overview

This document contains updated information for your *OpenManage Integration for VMware vCenter* (OMIVV) and any other technical documentation included with *OpenManage Integration for VMware vCenter* software.

The *OpenManage Integration for VMware vCenter* 3.1 now supports:

- vCenter; 5.5 U3, 6.0 U1, and 6.0 U2
- VMware ESXi versions; 5.5 U3, 6.0 U1, 6.0 U2
- T130, T330, R230, R330, C4130 platforms
- OMSA 8.2
- OMIVV appliance registration by non-administrator users with the required privileges
- Traditional Chinese language
- 64-bit DUP bundles for firmware update

## Space required for provisioned storage

The OpenManage Integration virtual appliance requires 43.5 GB of disk space for provisioned storage.

## Default virtual appliance configuration

The OpenManage Integration virtual appliance is provisioned with 8 GB of RAM and 2 virtual CPU.

## その他の必要マニュアル

次の vSphere Desktop および Web Client 用マニュアルのリストについては、[dell.com/support/manuals](https://dell.com/support/manuals) にアクセスしてください。

- 『Desktop Client 向け Dell OpenManage Integration for VMware vCenter 3.1 ユーザーズガイド』
- 『Desktop Client 向け Dell OpenManage Integration for VMware vCenter 3.1 インストールガイド』
- 『Web Client 向け Dell OpenManage Integration for VMware vCenter 3.1 ユーザーズガイド』
- 『Web Client 向け Dell OpenManage Integration for VMware vCenter 3.1 インストールガイド』
- 『Dell OpenManage Integration for VMware vCenter 3.1 リリースノート』

# サポートされているリソース

本章には、OpenManage Integration for VMware vCenter をサポートするリソースに関する情報が記載されています。

## ブラウザと Flash Player の要件

OpenManage Integration for VMware vCenter を表示するには、システムに最小 1024 x 768 の画面解像度と、オペレーティングシステムに基づく最小要件を満たすウェブブラウザが必要です。

- 
**メモ:** ブラウザと Flash Player の要件は、OpenManage Integration for VMware vCenter に対する VMware ガイドラインの通りです。対応ブラウザは、Microsoft Internet Explorer、Google Chrome、および Mozilla Firefox です。特定のブラウザバージョンについては、使用している vCenter バージョンの VMware のマニュアルを参照してください。
- 
**メモ:** Windows Server 2012 以降から OpenManage Integration for VMware vCenter にアクセスするには、デスクトップエクスペリエンス機能を有効にして Flash Player をアクティブにします。任意の ESXi ホストに OpenManage Integration for VMware vCenter（仮想アプライアンス）をインストールします。

表 1. vCenter Server バージョンに対する Flash Player の要件

vCenter バージョン	Flash Player のバージョン
v5.0 ~ v5.5	11.5.0 以降
v6.0 以降	16.0 以降

## BIOS、iDRAC、Lifecycle Controller のバージョン

OpenManage Integration for VMware vCenter の機能を有効にするには、次の BIOS、iDRAC、および Lifecycle Controller のバージョンが必要です。

OpenManage Integration for VMware vCenter を使用する前に、Server Update Utility (SUU)、Repository Manager、または Lifecycle Controller のプラットフォームを使用して、お使いのサーバーのバージョンを次のいずれかにアップデートすることが推奨されます。

表 2. Dell PowerEdge 第 11 世代 サーバー向けの BIOS<sup>th</sup>

サーバー	最小バージョン
PowerEdge R210	1.8.2 以降
PowerEdge R210II	1.3.1 以降
PowerEdge R310	1.8.2 以降
PowerEdge R410	1.9.0 以降
PowerEdge R415	1.8.6 以降
PowerEdge R510	1.9.0 以降
PowerEdge R515	1.8.6 以降

サーバー	最小バージョン
PowerEdge R610	6.1.0 以降
PowerEdge R710	6.1.0 以降
PowerEdge R710	6.1.0 以降
PowerEdge R715	3.0.0 以降
PowerEdge R810	2.5.0 以降
PowerEdge R815	3.0.0 以降
PowerEdge R910	2.5.0 以降
PowerEdge M610	6.1.0 以降
PowerEdge M610x	6.1.0 以降
PowerEdge M710HD	5.0.1 以降
PowerEdge M910	2.5.0 以降
PowerEdge M915	2.6.0 以降
PowerEdge T110 II	1.8.2 以降
PowerEdge T310	1.8.2 以降
PowerEdge T410	1.9.0 以降
PowerEdge T610	6.1.0 以降
PowerEdge T710	6.1.0 以降

表 3. Dell PowerEdge 第 12 世代 サーバー向けの BIOS<sup>th</sup>

サーバー	最小バージョン
T320	1.0.1 以降
T420	1.0.1 以降
T620	1.2.6 以降
M420	1.2.4 以降
M520	1.2.6 以降
M620	1.2.6 以降
M820	1.2.6 以降
R220	1.0.3 以降
R320	1.2.4 以降
R420	1.2.4 以降
R520	1.2.4 以降
R620	1.2.6 以降
R720	1.2.6 以降
R720xd	1.2.6 以降
R820	1.7.2 以降

サーバー	最小バージョン
R920	1.1.0 以降

表 4. Dell PowerEdge 第 13 世代 サーバー向けの BIOS<sup>th</sup>

サーバー	最小バージョン
R630	1.0.4 以降
T630	1.0.4 以降
R730	1.0.4 以降
R730xd	1.0.4 以降
R430	1.0.2 以降
R530	1.0.2 以降
T130	1.0.2 以降
T330	1.0.2 以降
T430	1.0.2 以降
R230	1.0.2 以降
R330	1.0.2 以降
M630	1.0.0 以降
M830	1.0.0 以降
FC430	1.0.0 以降
FC630	1.0.0 以降
FC830	1.0.0 以降

表 5. 導入用の iDRAC および Lifecycle Controller

世代	バージョン	
	iDRAC	Lifecycle Controller
Dell PowerEdge 第 11 世代サーバー	モジュラーには 3.35、ラックまたはタワーには 1.85	1.5.2 以降
Dell PowerEdge 第 12 世代サーバー	1.00.0 以降	1.0.0.3017 以降
Dell PowerEdge 第 13 世代サーバー	2.00.00.00 以降	2.00.00.00 以降

表 6. クラウドサーバーの BIOS と iDRAC の要件

モデル	BIOS	Lifecycle Controller 対応 iDRAC
C6320	1.0.2	2.20.20.20
C4130	1.0.2	2.22.22.20

## ポート情報

### 仮想アプライアンスと管理対象ノード

OpenManage Integration for VMware vCenter では、準拠 ウィンドウで利用できる 非準拠ホストの修正 リンクを使用して OMSA エージェントを導入するときに、OpenManage Integration for VMware vCenter が ESXi 5.0 以降による OMSA VIB のダウンロードとインストールのため



に、HTTP クライアントサービスの開始、ポート 8080 の有効化、およびポートの解放を行います。OMSA VIB インストールの完了後、サービスは自動的に停止し、ポートが閉じられます。

表 7. 仮想アプライアンス

Port Number (ポート番号)	プロトコル	ポートタイプ	最大暗号化レベル	方向	使用状況	設定可能
21	FTP	TCP	なし	出力	FTP コマンドクライアント	いいえ
53	DNS	TCP	なし	出力	DNS クライアント	いいえ
80	HTTP	TCP	なし	出力	Dell オンラインデータアクセス	いいえ
80	HTTP	TCP	なし	入力	管理コンソール	いいえ
162	SNMP エージェント	UDP	なし	入力	SNMP エージェント (サーバー)	いいえ
443	HTTPS	TCP	128 ビット	入力	HTTPS サーバー	いいえ
443	WSMAN	TCP	128 ビット	入力 / 出力	iDRAC/OMSA 通信	いいえ
4433	HTTPS	TCP	128 ビット	入力	自動検出	いいえ
2049	NFS	UDP/TCP	なし	入力 / 出力	パブリック共有	いいえ
4001~4004	NFS	UDP/TCP	なし	入力 / 出力	パブリック共有	いいえ
5432	Postgres	TCP	128 ビット	入力 / 出力	PostgreSQL	いいえ
11620	SNMP エージェント	UDP	なし	入力	SNMP エージェント (サーバー)	いいえ

表 8. 管理下ノード

Port Number (ポート番号)	プロトコル	ポートタイプ	最大暗号化レベル	方向	使用状況	設定可能
162, 11620	snmp	UDP	なし	出力	ハードウェアイベント	いいえ
443	WSMAN	TCP	128 ビット	入力	iDRAC/OMSA 通信	いいえ
4433	HTTPS	TCP	128 ビット	出力	自動検出	いいえ
2049	NFS	UDP	なし	入力 / 出力	パブリック共有	いいえ
4001~4004	NFS	UDP	なし	入力 / 出力	パブリック共有	いいえ
443	HTTPS	TCP	128 ビット	入力	HTTPS サーバー	いいえ
8080	HTTP	TCP		入力	HTTP サーバー ; OMSA VIB をダウンロードし、非標準 vSphere ホストを修正	いいえ
50	RMCP	UDP/TCP	128 ビット	出力	リモートメールチェックプロトコル	いいえ

Port Number (ポート番号)	プロトコル	ポートタイプ	最大暗号化レベル	方向	使用状況	設定可能
51	IMP	UDP/TCP	なし	該当なし	IMP 論理アドレスメンテナンス	いいえ
5353	mDNS	UDP/TCP		入力 / 出力	マルチキャスト DNS	いいえ
631	IPP	UDP/TCP	なし	出力	インターネットプリンティングプロトコル (IPP)	いいえ
69	TFTP	UDP	128 ビット	入力 / 出力	トリビアルファイル転送	いいえ
111	NFS	UDP/TCP	128 ビット	入力	SUN リモートプロシージャコール (ポートマップ)	いいえ
68	BOOTP	UDP	なし	出力	ブートストラッププロトコルクライアント	いいえ

## OpenManage Integration for VMware vCenter requirements

### Supported ESXi versions on managed hosts

The following table provides information about the supported ESXi versions on managed hosts.

ESXi version support	Server Generation		
	11G	12G	13G
v5.0	Y	Y	N
v5.0 U1	Y	Y	N
v5.0 U2	Y	Y	N
v5.0 U3	Y	Y	N
v5.1	Y	Y	N
v5.1 U1	Y	Y	N
v5.1 U2	Y	Y	Y
v5.1 U3	Y	Y	Y (except M830, FC830, and FC430)
v5.5	Y	Y	N
v5.5 U1	Y	Y	N
v5.5 U2	Y	Y	Y
v5.5 U3	Y	Y	Y
v6.0	Y	Y	Y



ESXi version support	Server Generation		
	11G	12G	13G
v6.0 U1	Y	Y	Y
v6.0 U2	Y	Y	Y

### Supported vCenter Server versions for release 3.1

The OpenManage Integration for VMware vCenter will work with any of the following vCenter Server versions:

vCenter version	Desktop Client Support	Web Client Support
v5.1 U2	Y	N
v5.1 U3	Y	N
v5.5 U1	Y	Y
v5.5 U2	Y	Y
v5.5 U3	Y	Y
v6.0	Y	Y
v6.0 U1	Y	Y
v6.0 U2	Y	Y

#### NOTE:

For more information on registering a vCenter server, see *OpenManage Integration for VMware vCenter, Quick Install Guide v3.1* available at [dell.com/support/manuals](http://dell.com/support/manuals).

## Dell PowerEdge シャーシでサポートされる機能

本章には、Dell PowerEdge シャーシでサポートされる機能に関する情報が記載されています。

機能	M1000e	VRTX	FX2S
SNMP アラート	Y	Y	Y
ハードウェアインベントリ	Y	Y	Y
CMS のリンクと起動	Y	Y	Y
ライセンス情報	該当なし	Y	Y
保証情報	Y	Y	Y
正常性レポート	Y	Y	Y

## PowerEdge サーバーでサポートされる機能

次の機能は、OpenManage Integration for VMware vCenter によって管理されているホスト上でサポートされるものです。

Resource (リソース)	プラットフォーム		
	第 11 世代	第 12 世代	第 13 世代
ハードウェアインベントリ	Y	Y	Y
イベントとアラーム	はい (SNMP v1 のみ)	はい (SNMP v1 および v2)	はい (SNMP v1 および v2)
コンポーネント毎の正常性監視*	Y	Y	Y
BIOS / ファームウェアアップデート**	Y	Y	Y
保証情報	Y	Y	Y
ホスト準拠	Y	Y	Y
ベアメタルサーバーの自動 / 手動検出	Y	Y	Y
ベアメタル準拠	Y	Y	Y
ハードウェア設定	Y	Y	Y
ベアメタルハイパーバイザー導入	Y	Y	Y
サーバー LED の点滅	Y	Y	Y
SEL ログの表示 / クリア	Y	Y	Y
iDRAC のリンクと起動	Y	Y	Y
iDRAC のリセット	Y	Y	Y

\*モデル番号 C6320 のクラウドでは、メザニンカードの正常性監視はサポートされていません。

\*\*モデル番号 C6320 のクラウドでは、メザニンカードのファームウェアアップデートはサポートされていません。

## Important notes

This section provides important information that you need to consider when you are working on OpenManage Integration for VMware vCenter.

- *OpenManage Integration for VMware vCenter* supports BIOS mode to deploy Hypervisor on the target server. Make sure that you have BIOS mode selected in the reference hardware profile before applying the Hypervisor profile. If there is no hardware profile selected, make sure to manually configure the boot mode as BIOS and reboot the server before applying the Hypervisor profile.

 **NOTE: Hypervisor deployment is supported only in the desktop client.**

- The *OpenManage Integration for VMware vCenter* currently supports only the community named "Public" or "public".The SNMP community name is not configurable. If another community name is used, the events are not received by the OpenManage Integration for VMware vCenter and the events do not appear in the VMware vCenter.
- A hardware profile created using a reference server with a certain BIOS version can cause deployment to fail. Some BIOS versions do not provide accurate information for certain BIOS settings, such as the Embedded NIC1 and NIC2 settings. When a server with the minimum BIOS version is used as a reference server in a hardware profile, the fields are ignored by both the UI and deployment. An issue may occur, however, if the settings in question are required to have a certain value for deployment to complete successfully.The solution to this issue is to use a server with up-to-date BIOS as a reference server for a hardware profile.

 **NOTE: Servers being used for deployment should also have updated BIOS. If deployment tries to apply settings to a server with issues in BIOS, deployment fails. Currently the BIOS version is not checked for compliance, but it is displayed on the server compliance page. Warnings are displayed on the hardware profile reference server and BIOS settings pages and when you select a deployment template with an affected hardware profile during deployment.**

- Registering OpenManage Integration for VMware vCenter with the VMware vCenter using Fully Qualified Domain Name (FQDN) is highly recommended. For FQDN based registrations, the hostname of the vCenter should be properly resolvable by the DNS server.

 **NOTE: For more information about the DNS requirements for vSphere, see:**

- [DNS requirements for vSphere 5.5](#)
- [DNS requirements for vSphere 6.0](#)